



初代校長  
**広瀬 豊十郎**

在任期間(年度)  
 明治35年～明治37年  
 (1902～1904)

東京女子高等師範学校助教授、広瀬豊十郎が本校初代校長に就任した。本校校長としての手腕だけでなく、県内女子教育の振興のためにも期待される人物であった。

高等女学校の基本理念は、独立自活するための教育ではなく、家庭にあって高い教養を身につけた良妻賢母を養成することであった。

広瀬校長は教育を効果的に行うため、学校と家庭が綿密な関係を持つ必要があるとし、父兄懇話会を定期的に開催した。第1回父兄懇話会で本校の教育方針は教授と訓育の二途であると述べた。ついで、女子が生活上守るべき事柄を内容とした、忠・孝・貞・和・勤の五箇条を校訓として発表した。

学則は厳しく、登下校の際の注意、校内での心得、家庭で守るべき事柄などが細かく定められており、生徒に日記を記させ隔週毎に点検した。当時無理な試験勉強は高等女学校の生徒の心身発育上問題があるとして、定期試験は禁じられていた。そのため不意に試験が行われ、生徒はいつも気が抜けなかったという。

厳しい規律に規制されながらも、体育・音楽・英語を学ばせるなど新しい側面も持っていた。昼休みには教師も生徒も共に講堂でダンスを楽しみ、休日にはテニスコートで一日中試合を楽しむこともあった。創立間もない頃で生徒数は少なく、広瀬校長が自宅に生徒を招くこともあり、校内には家庭的な雰囲気があふれていた。

年号	本校及び同窓会関係事項	社会一般事項
明治32 (1899)		2月 高等女学校令公布
明治34 (1901)	12月 広島県告示により本校の創立 下中町の広島県師範学校跡地及び旧校舎を 引き継ぐ	<ul style="list-style-type: none"> <li>山陽線全通(神戸～下関間)</li> <li>ノーベル賞創設</li> </ul>
明治35 (1902)	2月 広瀬豊十郎校長、初代校長に就任  3月 本校の学則を制定(修業年限4年 授業料月額 60銭 生徒定員400名)  4月 入学志願者選抜試験を実施  4月 入学式を挙行  6月 安芸郡府中町埃宮へ徒歩遠足運動  6月 第1回父兄懇話会で校訓を発表	1月 日英同盟協約調印  3月 広島高等師範学校設置  <ul style="list-style-type: none"> <li>赤色の郵便ポスト、日本橋に初めて設置</li> </ul>
明治36 (1903)	3月 春季運動会を挙行  7月 本校に電話を設置(431番)  11月 秋季運動会を開催	4月 横川～可部間乗合自動車の営業を開始 (日本最初のバス運行)  4月 修身・国語・日本史・地理・図画は、必ず国定 教科書を使用することになる  <ul style="list-style-type: none"> <li>ライト兄弟、初の動力飛行に成功</li> </ul>



**第2代校長  
齋藤 鹿三郎**

在任期間(年度)  
明治37年～昭和3年  
(1904～1928)

東京女子高等師範学校教授、齋藤鹿三郎が第2代校長に就任した。専門の地理学や女子教育に精通し、著作も多い新進気鋭の学者であった。昭和3年に新設の広島女子専門学校長に転出するまで24年間在職し、県女の基礎を確立した。

初めての訓示で「諸子は一生誠を以て貫け」と述べ、人間にとって大切なことは真の真心(至誠)を尽くすことであると述べた。折に触れ、至誠の根本は無限の親切・無限の辛抱にあると説き、次第に県女の根本精神として生徒の心に刻み込まれていく。

大正2年の入学式の式辞で次のように校訓十箇条を述べた。「一、君の恩を忘るべからざること 二、父母の命に従ふべきこと 三、先生を敬ひ必ず其の命に従ふべきこと 四、兄弟仲良くすること 五、身体を健康を図るべきこと 六、十分勉強すべきこと 七、自分を重んじ本校生徒たるの本分を守ること 八、何事も働くべきこと 九、先輩を見習ふべきこと 十、親切辛抱なるべきこと」。この十箇条は、順番や文言に多少の違いはあるものの、「生徒必携」にも記され、県女・第一県女の校訓として受け継がれていく。齋藤校長は月に一度の修身講話で、「偉人の蔭に偉人あり」と吉田松陰の母、乃木希典の妻など烈士・節婦・偉人の物語を主とした訓話を行った。齋藤校長には教科書や教育学関係の多数の著作があるが、その他『模範女子:隠れたる偉人』(六盟館 明治43年刊)や『吉田松陰正史』(第一公論社 昭和18年刊)などもある。

大正9年本校に3年課程の家事補習専攻科が設置された。翌年専攻科と改称し、良妻兼母教育と職業に進出可能な専門教育の要素を併せ持つようになった。女子の高等教育を積極的に推進していた齋藤校長は、文部省や県当局に働きかけ、広島女子専門学校への昇格に力を尽くした。

……………齋藤校長の「昔の思ひ出」……………

「明治40年に木綿の筒袖を実行して多くの人におこられ、その後洋服を敢行して将来洋服を着せぬと云ふ始末書を出せと知事さんから申渡され、宮島まで駆け足させて軍人から苦情を云はれ、学芸会を始めて女に演説の稽古は無用なりと視学官に叱られ、薙刀を課して文部大臣に叱られた……」(『有朋』創刊号より)

年 号	本校及び同窓会関係事項	社会一般事項
明治37 (1904)	2月 齋藤鹿三郎校長、第2代校長に就任 5月 校友会発会式挙行(校長・教員・生徒が会員)	2月 日露戦争始まる 9月 安芸郡仁保島村字宇品を広島市に編入
明治38 (1905)	3月 校友会機関誌「真己とのとく」創刊 3月 木綿の筒袖・袴・靴の着用決まる 6月 日本海海戦の戦勝旗行列に参加	5月 日本海海戦 6月 広島地方に大地震(芸予地震)
明治39 (1906)	3月 第1回卒業式を挙行(卒業生77名) 4月 卒業生のための補習科(1年)を設置 (修身・国語・数学・体操が必修) ・ 図書室を開設	4月 己斐―広島駅―宇品間の乗合馬車 定期運行開始(人力車衰退) 6月 学生思想風紀につき訓令 (社会主義を排斥)
明治40 (1907)		3月 小学校令を改正(義務教育年限6年に延長) 7月 高等女学校令を改正(修業年限は4年を原則とする)

年 号	本校及び同窓会関係事項	社会一般事項
明治42 (1909)	2月 同窓会「有朋会」の設立 3月 1年生生徒3組150名を募集	12月 横川－祇園間の鉄道開業
明治43 (1910)	1月 校友会事業として桐160本植樹 3月 1年生生徒2組100名を募集	8月 韓国併合に関する日韓条約調印
明治44 (1911)	3月 薙刀練習会を開催 3月 卒業式後卒業生伊勢地方修学旅行	6月 横川－可部間全線開通
明治45 大正元年 (1912)	10月 3年生以下2泊3日で桃山御陵に参拝 4年生桃山御陵参拝後6泊7日で京都・伊勢・奈良・大阪へ修学旅行	11月 広島市に路面電車開業
大正2 (1913)	9月 雨天体操場が完成 9月 体操服を制定 12月 雨天体操場で薙刀演武会開催	12月 広島－三次間乗合自動車の開業
大正3 (1914)		7月 第一次世界大戦起こる
大正4 (1915)	・ 図書館と博物館を新築	6月 広島－三次間鉄道全通
大正5 (1916)		・ コレラ流行(死者523名)
大正6 (1917)	2月 1年生生徒4組200名を募集 4月 授業料年額17円から20円へ 4月 校訓十箇条の制定 5月 天然痘大流行 全校生徒に種痘	11月 ソビエト政権成立(ロシア革命)
大正7 (1918)	8月 米騒動のため寄宿舎生、飯用米を持って帰舎	8月 米騒動おこる 11月 第一次世界大戦終わる ・ 悪性流行性感冒流行(死者1,550名) ・ 腸チフス流行(死者1,622名)
大正9 (1920)	3月 家事補習専攻科を設置(修業年限3年) ・ 校章(雪と蛭)と制服を制定	1月 広島高等工業学校設置 2月 国際連盟成立 10月 第1回国勢調査実施 (広島県の人口154万1,905人)
大正10 (1921)	3月 1年生徒5組250名を募集 4月 家事補習専攻科を改称し専攻科とする	
大正11 (1922)	・ 初めて対外試合が認められ、近県女子中等学校庭球大会で吉田・福岡組優勝	3月 全国水平社結成
大正12 (1923)	3月 新寄宿舎(千田町)落成 9月 関東大震災被災地に義援金・慰問袋を発送	9月 関東大震災 12月 広島高等学校設置
大正13 (1924)	3月 5年課程の学校として認可される 5月 本校の定員1,200名となる ・ 明治神宮陸上大会で織田美佐子が三段跳びで第2位	
大正14 (1925)		4月 治安維持法公布 5月 普通選挙法公布 7月 東京放送局ラジオ放送開始
大正15 昭和元年 (1926)	3月 保護者会創設 5月 摂政宮殿下本校に行啓	9月 広島市で局地的豪雨(死者行方不明100余名)
昭和2 (1927)	3月 4年課程最後の卒業式を挙行	



### 第3代校長 梅林寺 勝三

在任期間(年度)  
昭和3年～昭和10年  
(1928～1935)

広島県教育主事梅林寺勝三が第3代校長に就任した。梅林寺校長は進取の気性に富む人物で、情操教育を重視した新しい教育が校風となっていく。「人とは智徳体を兼ね備れるものの称なり」と説き、女子教育の理想は「優にやさしく謙遜の徳に富み、明るく而もしっかりとした女子である」と述べた。これらの言葉は校訓と共に生徒必携にも載せられていた。

当時は「文は心なり」と作文教育に力をいれており、年2回生徒の文集「あけぼの」を発行するようになった。また、音楽教育も充実させ、校歌も誕生した。生徒の研究や社会見学、毎月の遠足と年1回の大遠足、多彩な夏休みの行事などが行われていた。修学旅行を全学年で行った時期もある。そして、庭球部や排球部など運動部の活躍は全国に県女の名前を轟かせた。

教育界も次第に戦時体制へと移行していった。梅林寺校長は「国の発展する処非常時は付きもの」と「非常時」を強調し、教育方針も戦時体制を反映するものとなった。本校でも愛国子女団が結成され、学校生活全体が愛国子女団活動に彩られるようになっていった。

年 号	本校及び同窓会関係事項	社会一般事項
昭和3 (1928)	3月 広島女子専門学校設立により専攻科廃止 3月 梅林寺勝三校長、第3代校長に就任 ・ 進学のための上進課程を設ける	7月 広島放送局(JOFK)開局、ラジオ放送開始 8月 アムステルダムオリンピック大会で織田幹雄、三段跳びで金メダルを獲得 10月 広島市内乗合自動車の運行開始
昭和4 (1929)		4月 東京と広島に文理科大学新設 10月 福屋百貨店開業 10月 世界恐慌始まる
昭和5 (1930)	7月 生徒文集「あけぼの」創刊	
昭和6 (1931)	・ 本校講堂でJ. ハイフェッツのヴァイオリン演奏会	2月 宮島線全線開通 9月 満州事変勃発
昭和7 (1932)		5月 五・一五事件(犬養首相暗殺)
昭和8 (1933)	・ 第16回全日本女学校庭球大会で大石・伊賀組優勝。永山・佐久間組準優勝。第1回全国女子中等学校庭球大会で大石・伊賀組優勝	3月 国際連盟を脱退 4月 県内高等女学校の制服をセーラー服に統一
昭和9 (1934)	10月 校旗制定 ・ 第17回全日本女学校庭球大会で永山・佐久間組優勝。第1回伊勢神宮庭球大会で成田・森田組優勝。全日本排球選手権大会で排球部初優勝	9月 室戸台風(死者行方不明者3,036名) 10月 相生橋T字型連絡橋開通式 ・ 東北地方で大凶作
昭和10 (1935)	2月 愛国子女団(愛国婦人会広島県支部広島県立広島高等女学校子女団)結成 6月 文部大臣「社団法人広島県立広島高等女学校有朋会」の設立を認可 10月 校歌制定 11月 同窓会誌「有朋」創刊	2月 貴族院で美濃部達吉の天皇機関説問題化 8月 政府、国体明徴声明 10月 第4回国勢調査(人口約9,800万人) 12月 呉線呉一三原間開通



## 第4代校長 清水 芳徳

在任期間(年度)  
昭和11年～昭和15年  
(1936～1940)

広島県立広島第二中学校校長、清水芳徳が第4代校長に就任した。中学校の校長を経験した人だけあって、今までより特に「勉学」を強調した。近寄りがたい威厳があり、派手さや目立つことを好まなかったが、人情味の厚い人柄であった。生徒に「慎言・整容・積功・励行」の四箇条を説き、女子教育の理想は「優にやさしく恭謙な、清く明るい剛健な女子」を目指すことと述べ、「生徒必携」にも校訓と共に載せられた。

清水校長は時局の進展に対応し、「堅忍持久」と題して日本精神の高揚を呼びかけた。戦時体制が更に深まると、訓育の面が強調されるようになった。本校でも毎日の朝礼で東方遙拝・黙禱を行い、月曜日の朝礼では「互励訓」を読誦した。

昭和10年愛国子女団結成以来、本校では陸軍兵器支廠、被服支廠での奉仕作業や校外園での農作業を行っていた。体力の増強や健康管理につながる大遠足や球技、寒稽古と称する1, 2キロの駆け足、水泳訓練・林間合宿訓練などの行事も行われ、勤労働員が頻繁に行われるようになるまで続けられた。

英語の授業時間数にも戦時色が現れている。昭和2年入学生は5年間週3時間くらいあったが、昭和12年入学生は英語は2年まででなくなったという。

年 号	本校及び同窓会関係事項	社会一般事項
昭和11 (1936)	4月 清水芳徳校長、第4代校長に就任 7月 排球部、朝鮮排球協会の招聘をうけ京城(ソウル)遠征 ・ 全国女子卓球大会で坪井靖恵 優勝	2月 二・二六事件起こる 6月 国民歌謡、ラジオ放送開始
昭和12 (1937)	4月 薙刀が正課となる 5月 愛国婦人会総裁伏見宮妃殿下、愛国子女団親閲のため来校 ・ 日中戦争のため修学旅行中止	4月 郵便料金改定(はがき2銭、封書4銭に値上げ) 5月 第1回文化勲章授与式 7月 日中戦争起こる
昭和13 (1938)	6月 出征将兵遺家族慰安学会実施 10月 神社参拝修学旅行出発	4月 国家総動員法公布 5月 学校報国旗授与式 6月 勤労働員始まる ・ ガソリン不足で木炭自動車走る
昭和14 (1939)	7月 広島県下女子中学校勤労報国旗授与式に校長・職員・生徒150名出席。勤労奉仕始まる 8月 青年徒歩訓練で長門峡から高瀬まで15キロ踏破(松陰神社、吉田松陰記念館、萩の史跡めぐり)	4月 米穀配給統制法公布 5月 「青少年学徒に賜りたる勅語」 6月 文部省、夏期休暇を学生・生徒の心身鍛練にあて集団勤労作業を行うよう通達 9月 第二次世界大戦始まる



### 第5代校長

## 岡 猪真二

在任期間(年度)  
昭和15年～昭和20年  
(1940～1945)

福山高等女学校校長、岡猪真二が第5代校長に就任した。端正、高潔な人柄で、剣道、テニスにも優れたスポーツマンでもあった。

昭和16年4月第二県女の設立に伴い、本校の校名は「広島県立広島第一高等女学校」と改称される。

次第に超国家主義、軍国主義の体制が強化されていく中、本校にも勤労報国隊が発足した。昭和16年八木村に、生徒の集団訓練・心身の鍛錬を目的とした修練道場が開設された。保護者中田傳次郎氏が私財を投じて完成させたものである。生徒は1クラスずつ2泊3日の集団生活を行い、教職員の講話による精神修養と食料増産のための勤労作業が日課であった。この道場の落成式の折、岡校長は次のように述べている。

「今やわが国は(中略) 国家総力を挙げたる臨戦体制下にあるのであります。学校教育も亦、この国家の現勢に随順して、困難克服の任に堪ふべき剛健なる精神と、強靱なる体力を具備する青少年学徒の育成に努めねばなりません」

昭和19年学徒勤労令が公布され、戦時下の体制に生徒もいやおうなく組み込まれ、軍需生産のための労働力要員とされた。学校の機能は事実上停止したのであった。

昭和20年8月6日原爆投下。建物疎開に動員されていた1年生を含む多くの生徒教職員が死亡。下中町の校舎は一瞬にして灰燼に帰し、出校していた岡校長をはじめ教職員・生徒も学校で死亡した。

年号	本校及び同窓会関係事項	社会一般事項
昭和15 (1940)	3月 三滝山麓に校外園を造成  4月 岡 猪真二校長、第5代校長に就任  11月 「紀元2600年記念式典」に職員・生徒の代表が参列。本校でも奉祝式を挙行 『まことの徳 紀元2600年記念誌』を発行  ・ 進藤・棚谷組、全日本女学校庭球大会で優勝。明治神宮体育大会女子中等学校の部でも優勝。昭和15年度日本選手権大会優勝  ・ 神社参拝修学旅行(3泊4日)伊勢神宮・橿原神宮・畝傍御陵・後醍醐天皇陵に参拝	9月 日独伊三国同盟締結  10月 大政翼賛会発足  11月 皇居前広場で行われた「紀元2600年記念式典」に5万数千人の全国各地の代表が参列
昭和16 (1941)	4月 広島県立広島第一高等女学校に改称  4月 勤労報国隊を結成  6月 八木修練道場の開設  11月 5年生からクラス別に八木修練道場で2泊3日の錬成始まる	8月 「学校報国隊の編成」の訓令通達          12月 太平洋戦争勃発

年 号	本校及び同窓会関係事項	社会一般事項
昭和17 (1942)	<ul style="list-style-type: none"> <li>大詔奉戴日に護国神社へ参拝、武運長久祈願</li> <li>軍需工場での作業は合計36回</li> <li>救急袋と防空頭巾という格好で歩行班を編成して通学</li> <li>修学旅行中断、宮島行軍遠足及び各学期1回の行軍を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月 毎月8日を大詔奉戴日と定める</li> <li>4月 米軍機日本本土初空襲</li> <li>6月 ミッドウェー海戦敗北</li> <li>6月 関門海底トンネル開通(鉄道)</li> <li>三菱重工業が観音・江波地区に進出、艦船の建造に取りかかる</li> </ul>
昭和18 (1943)	<ul style="list-style-type: none"> <li>勤労奉仕作業始まる(被服支廠で軍服の裁断やボタン付け)作業の合間に竹槍訓練</li> <li>入試に「掃除」の実技試験を加える</li> <li>3年生以上に英語を課さず、農作業・教練を強化</li> <li>県女定員 学級数25 生徒数1,200</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月 高等女学校規程により修業年限4年となる修練の比重が増加</li> <li>9月 イタリア無条件降伏</li> <li>10月 第1回学徒兵入隊、学徒出陣</li> </ul>
昭和19 (1944)	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月 5年生は広の海軍航空廠へ通年動員</li> <li>雨天体操場に動力ミシンを設置、4年生は陸軍被服廠の作業を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月 サイパン島玉砕 東條内閣総辞職</li> <li>8月 学徒勤労令・女子挺身隊勤労令公布</li> <li>8月 学童集団疎開</li> <li>10月 神風特別攻撃隊出撃始まる</li> </ul>
昭和20 (1945)	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月 4年生、繰り上げで5年生と同時に卒業</li> <li>3月 5年卒業者、広海軍航空廠へ動員継続 4年卒業者、被服廠川内村工場に動員 3年生、広島印刷・広島航空に動員継続</li> <li>4月 4年生、東洋工業・広島航空に動員</li> <li>7月 2年生、広島印刷・広島航空に動員</li> <li>8月 6日より1年生建物疎開に動員始まる</li> <li>8月 原爆投下、下中町の校舎は倒壊・焼失 校長・教職員・生徒301名死亡</li> <li>8月 広島県立呉第一高等女学校の土橋幸之助校長、本校の校長事務取扱いに就任</li> <li>9月 草津さくら寮・川内国民学校・八木修練道場の3ヶ所で授業再開</li> <li>12月 草津教専寺において原爆犠牲教職員生徒の慰霊祭を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月 「決戦教育措置要項」閣議決定 (国民学校初等科を除き、4月から1年間の授業停止)</li> <li>5月 ドイツ無条件降伏</li> <li>8月 広島、長崎に原爆投下</li> <li>8月 ポツダム宣言受諾(終戦)</li> <li>10月 国際連合成立</li> <li>12月 GHQ 修身・国史・地理の授業停止を指令</li> </ul>
昭和21 (1946)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月 草津さくら寮・旧陸軍被服支廠倉庫の2ヶ所で分散授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月 公職追放令公布</li> <li>1月 修身・国史・地理の授業停止</li> </ul>



## 第6代校長 土橋 幸之助

在任期間(年度)  
昭和21年～昭和23年  
(1946～1948)

昭和20年8月6日付けで、呉第一高等女学校校長の土橋幸之助が本校の校長事務取扱に就任した。2つの県立高女の戦災復興の重責を背負うことになったが、広島第一県女復興に主力を注いだ。

9月八木修練道場を仮校舎とし、草津町のさくら寮と川内国民学校の3ヶ所で分散授業が始められた。食糧・物資の欠乏がひどく、乗り物もなく生徒は通学に困難を極めた。

昭和21年3月、土橋校長は本校の第6代校長に就任。旧陸軍被服支廠のレンガ造りの大倉庫の一部転用を受け、4月より全校生徒を収容して授業を開始した。校友会活動も再開し、21年8月6日には雑誌部生徒による「第一県女新聞」創刊号が発行された。その巻頭言で土橋校長は、民主的、平和的、文化的新日本を建設しなければならぬと述べ、新聞の発行や生徒の活動は教育の民主化の役割を果たすものであると激励した。

昭和23年、第一県女は新制高校の「広島県広島有朋高等学校」となることになった。土橋校長は第一県女5年を卒業する生徒に対して、

「新憲法下で男女の平等がうたわれる今、民主日本における女子の地位は高くその任務は重い。したがって諸子は、諸子のために門戸が解放された新制高校にふるって入学して、新時代に適応した新教育を受けるよう切望する」と激励の辞を寄せた。

高校再編成の直前、昭和24年2月「両親のための新教育の葉」を配布し、次のように述べた。

「義務だから民主教育をやるんだ、という消極的態度ではなく(中略)敗戦の原因を教育の面から考え、どうしても民主教育でなければならぬことを痛感するのであります」

後に「皆実有朋60周年記念誌」の中で土橋校長はこの時期を「長い教員生活において、広島第一県女時代ほど最も惨めで、最も愉快的な、最も苦しくて、最も楽しい時期はなかった」と述べた。

年 号	本校及び同窓会関係事項	社会一般事項
昭和21 (1946)	3月 土橋校長事務取扱、第6代校長に就任 4月 5年制に復す 4月 第一県女最後の1年生入学 4月 出汐町被服廠倉庫の一部を修理、全生徒を収容して授業再開 5月 旧校地内を整備、戦災死亡教職員生徒追悼の木碑を建てる 8月 被爆1周年追悼会を行い、哀悼歌を捧げる 8月 「広島第一県女新聞」創刊 10月 第1回復興祭  ・ 校友会活動の復活	3月 物価統制令公布  4月 GHQの教育改革(国家主義的・軍国主義的思想の排除)  7月 政府、国号を「日本国」と決定  9月 地理の授業復活  11月 日本国憲法公布 11月 国史の授業再開  ・ 警視庁、婦人警官を初めて採用

年 号	本校及び同窓会関係事項	社会一般事項
昭和22 (1947)	5月 被服支廠木造建物に校舎を移転 旧被服支廠本館を本校の本館とする  10月 運動会  11月 第2回復興祭 ・ 5年生の修学旅行復活(南九州一周)	3月 教育基本法・学校教育法公布  4月 新制中学校発足(中1まで義務教育)  4月 六・三・三・四制の学制発足  5月 日本国憲法施行  ・ 第1回参議院議員選挙
昭和23 (1948)	3月 広島第一県女最後の卒業式(卒業生267名、 この内104名が有朋高校の3年生に進級)  5月 広島県広島有朋高校発足  6月 従来の定期試験の廃止  9月 生徒自治会「あけぼの会」誕生  10月 運動会  10月 広島有朋高校PTAの結成  ・ 開校記念行事として1人1冊以上の献本を 目標に1,000冊献本運動を展開	4月 中2まで義務教育  4月 新制高等学校の発足    11月 極東国際軍事裁判(東京裁判)25被告に 有罪判決  12月 国連総会 世界人権宣言を採択  ・ プロ野球初ナイター  ・ 警視庁、110番を設置
昭和24 (1949)	3月 有朋高校解散惜別大音楽会開催 惜別歌「さらば有朋」  3月 卒業式で次のように卒業・修了証書を授与 有朋高校第1期卒業生104名(43期生) 第一県女卒業生278名(44期生) 有朋高校1年修了188名(45期生) 附設中学校第2回卒業生325名(46期生)	1月 GHQ、高校3原則(小学区制・男女共学制・ 総合制)に基づく高校再編成を指令  1月 初の成人式  1月 国宝法隆寺金堂の壁画焼損  3月 県教委高校再編成を発表(公立73校を46校に 統廃合)



## 皆実高校初代校長 宮川 造六

在任期間(年度)  
昭和24年～昭和25年  
(1949～1950)

昭和24年4月30日、高校再編成(総合制・男女共学制・学区制の3原則)により校名が改称され、「広島県広島皆実高等学校」が発足した。元広島県広島工業高等学校・元広島市工業高等学校・元広島県有朋高等学校・元広島県広南高等学校の4校を母体としている。

広島市二葉高校校長、宮川造六が新製の皆実高校初代校長に就任した。宮川校長は、教育の根本方針を「民主主義教育を徹底すること」とした。特に生徒自身に社会共同生活の観念をよく理解させ、公私の生活をよく知り、共同社会生活の一員としての責任と義務を果たすような人物を養成することに力点がおかれた。

校訓は「敬愛・礼節・協同・公正」の四徳であるとし、工業部がもつ勤勉の気風を普通部の生徒にも反映させ、また普通部がもつ広く深い教養と常識を工業部にも反映させることが重点の一つとされた。これは従来のわが国の実業教育と普通教育のあり方を改善し、全人的教育を目指そうとする、新時代の教育のあり方に沿うものであった。

こうした中、様々な行事が行われ、自治会や新聞部など生徒の活動もめざましいものがあった。しかし、普通部と工業部を合わせて生徒1,800余名、教職員120名はあまりにも多く、校地も千田町と旭町(出汐町)に離れ、倉庫を改造した校舎も設備も整っておらず、多くの問題を抱えていた。しかも、宮川校長は米軍軍政部の視察や、高校再編成についての質問叱責など、対応に追われる状態であった。

年 号	本校及び同窓会関係事項	社会一般事項
昭和24 (1949)	4月 宮川造六校長、皆実高校初代校長に就任 4月 男女共学の総合制高校「広島県広島皆実高校」となる。授業料年額3,000円 5月 開校式を行う(週5日制) 6月 校章(鳩とペン)制定 (鳩は平和を、ペンは勉学を象徴) 6月 PTA結成 6月 生徒自治会発足 6月 「広島皆実高校新聞」創刊 10月 第1回運動会・第1回文化祭を2日間で開催 ・ 秋に京阪神へ修学旅行 ・ 「広島皆実高校新聞」第2回広島県高校新聞コンクールで1位、以後8年連続1位	4月 GHQ、為替レートを1ドル＝360円に設定 (昭和48年変動相場制に移行) 4月 中3まで義務教育(新制中学完成) 5月 新制国立大学69校を設置 12月 京大教授湯川秀樹ノーベル物理学賞受賞 12月 広島カーブ誕生 ・ 東京消防庁、119番を設置
昭和25 (1950)	3月 皆実高校第1回卒業式 (普通部131名、工業部317名) 4月 春休みに京阪神地方へ修学旅行(5泊6日)、各自米を持参 7月 旭町校舎文芸部の雑誌『構図』発刊 8月 皆実同窓会結成(普通部のみ)	1月 年齢の呼称が満年齢となる 6月 朝鮮戦争勃発 ・ 金閣寺、放火のため全焼 ・ 日本の女性の平均寿命が60歳を超える



## 第2代校長 有馬 政一郎

在任期間(年度)  
昭和26年～昭和27年  
(1951～1952)

広島観音高校校長、有馬政一郎校長が第2代校長に就任した。当時本校は、旭町(出汐町)と千田町とに分かれていた校地・校舎の整備の問題や、普通部・工業部間の生徒・教職員の多様な問題を抱えていた。

こうした状況下、有馬校長は千田町校舎の移転問題に奔走し、昭和27年元被服廠跡地と千田町校舎との交換交渉が国税局と県との間で成立した。昭和26年9月にはC校舎が完成しており、ようやく千田町工業部の移転が始まるかに見えたが、実業高校復活問題が起こり、翌年の工業部独立へとなる。

昭和28年1月、年頭の辞で「前年の回顧と以後の学校経営について」の所信を表明。この時代の国内は、講和の問題や独立後の再軍備の是非をめぐって騒然とした世論が渦巻きつつあった。校長はまずその点に触れて「一方的な論議に陶醉したり直接行動に走ったりすることのないよう、また広い視野と深い教養の上に立ってこれら論議に批判を加えて取捨選択を誤らぬよう」と呼びかけた。昭和27年3月に卒業する生徒に与えた色紙に「至誠一貫」と記している。

何をすることも会場の問題解決が大きな課題となっていたが、そうした中でも学校行事は盛んで生徒の活動も活発であった。しかし昭和27年11月、工業部職員・生徒30名が、三段峡見学旅行中に架橋落下事故に遭遇し、生徒7名が死亡したのは悲痛な出来事であった。

年 号	本校及び同窓会関係事項	社会一般事項
昭和26 (1951)	1月 B校舎の移転改修完了 1月 宮川造六校長、広島市教育長に転出 1月 有馬政一郎校長、第2代校長に就任 9月 C校舎完成 ・ 昭和26年度卒業生数289名 (国公立大学合格者数82名、就職者数51名) ・ 球団創設期の広島カープ、皆実高校グラウンドで練習	4月 GHQ総司令官マッカーサー解任 7月 ユネスコに加盟 9月 サンフランシスコ講和条約及び日米安全保障条約調印 10月 第6回広島国体開催 10月 『原爆の子』(長田新編)刊行
昭和27 (1952)	1月 第1回校内マラソン大会開催(黄金山一丹那一的場のコース、男子400名、女子300名が参加) 2月 生徒歌「友よ」発表 4月 文芸部雑誌『構図』、第1回広島県高校文芸誌コンクールで第1位獲得 7月 女子の制服(セーラー服)決定、9月より着用(2,3年生は希望者のみ) 11月 工業部教職員・生徒30名が三段峡で架橋落下事故に遭遇。生徒7名が死亡	6月 平和大橋完成 11月 市町村教育委員会全国一斉に発足 ・ NHKラジオドラマ(生放送)「君の名は」放送開始 ・ ボクシング白井義男、日本人として初めて世界の王者となる。
昭和28 (1953)		2月 NHK、テレビ本放送開始 3月 入学者選抜学力検査の統一(必修5教科・選択3教科)



**第3代校長  
数田 猛雄**

在任期間(年度)  
昭和28年～昭和30年  
(1953～1955)

昭和28年4月1日、本校は普通科・生活科を併設する単科制の広島県広島皆実高等学校として再出発する。

呉三津田高校校長、数田猛雄が第3代校長に就任した。着任早々、本校職員生徒に対し「1. 品位ある校風をつくることに力をあわせること 2. 感動の多い学園生活とするよう企画・工夫・実行すること 3. 勉強と運動の両立をはかり、これを工夫に高めていくこと 4. 誠意と友情の交換により、我が師・我が友を得て卒業すること」の4点を要望した。

昭和29年度から募集定員が50名増となった。従来の少人数のクラス編成を50余名に増員し、普通科の学級数を1クラス減とした。ホームルームという言葉の浸透の中で、本校で学級をホームと呼ぶようになったのはこの頃からである。

昭和29年3月新体制となって初めての卒業式で、数田校長は卒業生に贈る言葉として、「何より心残りなのは立派な校舎と設備の中で勉強させてやる事が出来なかったことだ」と詫びつつ、「しかし高校生活3年の間に我が師・我が友を得てくれたとするならそれこそが卒業後の人生に役立つであろう」と述べ、信念の保持と与えられた仕事への意欲と強健な身体を作ることなどを期待して、はなむけとした。

数田校長は昭和38年『広島県中等教育百年の回顧』を著した。

年 号	本校及び同窓会関係事項	社会一般事項
昭和28 (1953)	4月 数田猛雄校長、第3代校長に就任 5月 生徒会発足 7月 校章(柏葉と雪)決まる	4月 週5日制の廃止
昭和29 (1954)	5月 有朋会と皆実同窓会の合併により、社団法人皆実有朋会発足 7月 生徒歌「われら羽搏く」決まる 7月 倉橋町桂ヶ浜で初の臨海訓練を行う(4泊5日) 11月 鉄道用地(現広島工業高校運動場)を本校の運動場にするため、全校生徒で整地する	3月 ビキニ水爆実験で第五福竜丸被曝 これを契機に原水禁運動が高揚 5月 県立高校(全日制課程)授業料 月額550円
昭和30 (1955)	4月 1年生歓迎遠足で全校生徒バス15台で岩国へ 6月 中校舎木造2階建竣工 8月 旧広島第一県女正門跡に「原爆犠牲者追憶の碑」建立、慰霊祭を行う 10月 応援歌「若き血潮」決まる	2月 広島地方に大雪(広島市内の積雪30cm) 本通アーケード崩壊 8月 広島市原爆資料館開館 8月 第1回原水爆禁止世界大会広島大会
昭和31 (1956)	3月 広島市内公立5校、総合選抜制を始める	3月 NHK広島放送局、テレビ放送開始



## 第4代校長 木村 二郎

在任期間(年度)  
昭和31年～昭和37年  
(1956～1962)

広島県広島観音高等学校校長木村二郎が第4代校長に就任した。木村校長は戦前の第一県女時代から生物教諭として、戦後は土橋校長の元で第一県女・有朋高校の教頭として、復興・再建にあたった人物である。木村校長は、学校の努力目標として「1. 人のいうことを静かに聞こう 2. 身の回りをきれいにしよう 3. 責任を持とう」を挙げた。相手を尊重し、積極果敢に行動し、自分の人生に責任を持つことが幸福につながるという意味であった。新入生には上記の3項目の前に「勉強、勉強、勉強」が加わり、勉強とは困難な事を努めて強行することだと説いた。

在任中、「皆実高校生諸君」と題したパンフレットを生徒に与え、その回数は52回に及んだ。内容は勉強、人生や青春・恋愛について生徒との対話、先人・偉人の言行などで、生徒の生き方・考え方の指針になるよう丁寧に書かれた、深い内容のものであった。本校の校訓になっている「勤勉・強行・責任・自由」の起源もその一つである。

これらは校長の教育に賭ける信念と意欲に貫かれている。それは原爆被災以来の長く苦しい時を、本校の責任者の一人として歩んだ年月と無関係ではないであろう。パンフレットは、生徒の間だけでなく、教員や保護者にも愛読された。後の皆実高校の教育の根幹をなしたと言っても過言ではない。在任中配布されたものは、昭和38年皆実有朋会によって小冊子としてまとめられた。

鉄筋3階建ての新校舎が完成し、新築ではないが講堂と図書館も完成した。生徒の活動もいきいきと活発で、文化祭では討論会も行われ、昭和36年には、以前から盛んであったフォークダンス大会がクラスマッチ形式で開催された。また、創立60周年の年を迎え、校歌・校旗が発表され、同窓会からはプールが寄贈された。

年 号	本校及び同窓会関係事項	社会一般事項
昭和31 (1956)	4月 木村二郎校長、第4代校長に就任 7月 旧第一県女門柱を「追憶の碑」傍に建つ 9月 旧校舎を改造して講堂兼体育館とし、南校舎とする 11月 皆実有朋会、開校55周年記念音楽会を広島市公会堂で開催	4月 県立高校(全日制課程)授業料 月額650円 12月 国際連合に加盟
昭和32 (1957)	6月 生徒手帳を全校生徒に配布 6月 『構図』、広島県高校文芸誌コンクールで第一位となる	1月 南極観測隊オングル島に上陸 昭和基地と命名 7月 広島バスセンター開業 7月 広島市民球場完成
昭和33 (1958)	2月 鉄筋3階建校舎(普通教室15、特別教室3)竣工、北校舎とする 3月 修学旅行再び関東・九州2方面となる(5泊6日) 4月 生徒ホール建築 旧校舎一部を柔道場に改造	5月 「原爆の子の像」除幕 12月 1万円札発行

年 号	本校及び同窓会関係事項	社会一般事項
昭和34 (1959)	9月 広島工業高校との間で使用グラウンドを決定、 本校は北グラウンドの使用となる 12月 皆実有朋会、プール建設資金を募るため 「二葉あき子歌の集い」を広島市公会堂で開催	1月 NHK教育テレビ放送開始 9月 伊勢湾台風
昭和35 (1960)	4月 皆実有朋会による皆実有朋プール完成 9月 初の水泳クラスマッチを行う	9月 カラーテレビ本放送開始
昭和36 (1961)	3月 運動場校地決定 4月 校旗の制定 5月 創立60周年記念式典・祝賀会を講堂で挙 行 校歌発表	6月 郵便料金(はがき5円、封書は重量毎) 9月 広島空港(観音町)開港 10月 文部省、初の中学校全国一斉学力調査を実施
昭和37 (1961)	1月 音楽教室竣工 8月 鉄筋平屋建て体育部室PTAの寄付で完成 ・ 生物部埴田、日本学生科学賞第3位	4月 県立高校(全日制課程)授業料月額 800円 6月 広島県立体育館開館 12月 公立高校入試科目を9科目とする



## 第5代校長 増田 忠夫

在任期間(年度)  
昭和38年～昭和42年  
(1963～1967)

広島県尾道北高等学校校長、増田忠夫が第5代校長に就任した。増田校長は、本校の第一印象について「生徒は気品があるも気迫が不足している。クラブ活動の施設は優れている。県女の大きな風格を感じる」と述べた。

昭和38年度、教育方針は「1. 個性の尊重 2. 文化の創造 3. 身体の強健 4. 社会の理解 5. 勤労の愛好と義務と責任の履行 6. 敬愛と協力」と述べた。昭和39年度は、具体的な学習の方法、授業時間の確保などを盛り込んだ内容となり、在任中継続された。

生徒急増期を迎え進学競争が激しくなる中、増田校長は「魅力ある学校」の育成に努め、時代の要請に応じて学校運営の方針を大きく転換させた。生徒の能力・適性・進路に応じた教育を推奨し、中でも学力強化を強調した。学力増強を図るためには生徒を自由放任にすべきでないとし、年間の授業時間を増やし補習の強化を推し進めていった。このような進学体制の強化は諸行事にも影響を及ぼし、縮小されていった。

年 号	本校及び同窓会関係事項	社会一般事項
昭和38 (1963)	4月 増田忠夫校長本校第5代校長に就任 5月 鉄筋3階建校舎6教室竣工(旧1号館)	4月 広島県、生徒増で1学級55人のすし詰め学級 11月 ケネディ大統領暗殺
昭和39 (1964)	5月 本館を移築し、美術・書道教室に改造。 跡地に1号館に継ぎ鉄筋3階建ての本館竣工 (翌年3教室継増築) ・ 倉橋島臨海学校中止	4月 広島市の人口50万人に 7月 山陽本線 広島一小郡間電化 10月 東海道新幹線開業(東京一新大阪) 10月 東京オリンピック
昭和40 (1965)	3月 体育館兼講堂竣工 5月 PTAの寄付により鉄筋2階建て特活校舎竣工  ・ 1年生3学期に修学旅行(この年だけ)	4月 広島県立女子大学発足 5月 太田川放水路通水式 8月 広島県立屋内プール開館 12月 広島駅ビル開業 12月 朝永振一郎ノーベル物理学賞受賞
昭和41 (1966)	4月 衛生看護科新設 第1期生入学(44名)  8月 農林事務所を衛生看護科仮校舎に改装 8月 1年生臨海学校再開(光市室積)(4泊5日)	4月 郵便料金(はがき7円、封書15円) 6月 ビートルズ来日 7月 広島市議会、原爆ドームの永久保存を決議 8月 中国文化大革命(～1976) ・ 全共闘運動始まる ・ いざなぎ景気(～1970)
昭和42 (1967)	1月 鉄筋3階建理科校舎完成 4月 3年生だけ1学級を2ホームに分ける (授業は学級毎) 5月 第1回合唱コンクール開催 ・ 夏休みに信州・関東方面修学旅行(5泊6日) 9月 鉄骨2階建武道場完成 9月 運動会・文化祭を2日間で同時開催	2月 初の建国記念の日  7月 ヨーロッパ共同体(EC)発足 8月 原爆ドーム保存工事了